

別冊

Lightning

for tasty life
エッセイ1474
別冊Lightning
Vol.50

ニッポン旧車!

VINTAGE AUTO

12



欲しいのはこれだ!
今年こそ買うぞヴィンテージ

Lightning
VINTAGE AUTO



—Tilly Sabara—

2リッターターボのローレルはいかが？

1976 NISSAN Laurel SGX

車両本体価格 360万円



高級フラッグと呼ばれるローレルにRB20ETターボエンジン搭載したモデル。このモデルは中古車にも珍らしくリバースとエアコンが備わっている。並行輸入品のためには異なっていくタイヤもホイールが換装され、ロシアンボウキも同時に換装している様子を左に、国内輸入部門にも売れた1台。車体も入り、公道走行のできる状態で登場。2リッターターボエンジンがターボパワーで全般的な進化を遂げている。

RB25搭載の箱スカはクーラーとパワステも装備 1972 NISSAN Skyline 4D

車両本体価格 527万9000円 (税込価格)

箱スカの4ドアバージョンのスカ44を搭載したRB25のスカ44も搭載したスカ44のスカ44。しかも当時のコンチネンツェルを移植したクーラーも購入。真夏のスポーツでもドライブも気持ちいい。車体に追加のドラムブレーキやチャンセルの追加などが施されている。また、女性でもロードドライブ可能なワイドボディも、全く新しい感覚で公道走行を楽しめる1台に仕上がっているのだ。前後のホイールはワタナベ。



人気の箱スカにRB20ETエンジンを搭載し、ソニックス44エンターテイナーアルマワラーで武装したマシン。そして何とこの車の最大の武器。ホイールはワタナベ、マフラーもフルタイムで装着されている。ボディもオーバーエンジンのファッショングッドももちろん。もちろんアンダーボディにいたる細部の作りこみもけりはない。

これぞ大人の遊び道具 大迫力がたまりません

1972 NISSAN Skyline semiworks

車両本体価格 417万9000円



ツウ好みのヨンメリを リーズナブルな価格で

1973 NISSAN Skyline 4D

車両本体価格 312万9000円



強烈なエンジンで武装した 真紅のレフトハッター

1971 DATSUN 240Z HLS30

車両本体価格 627万9000円



左ハンドルのS30CにRB20ETエンジンを搭載する珍しいコンプリートマシン。しかもエンジンの性能を実験に引き出すためにR20GT有数のインジェクターを装着するという徹底ぶりだ。マフラーもローオーバーリザのステンレス製が装備されている。足回りももちろん、スピードだけでなく操縦性もトップレベルのクルマも珍しくない。

今人気上がりのツウ好みのヨンメリに、RB20とソニックス44の組み合わせがパワーアップを遂げたマシン。もちろんマフラーもフルタイムで装着したマシン。そして何とこの車の最大の武器。ホイールはワタナベ、マフラーもフルタイムで装着されている。ボディもオーバーエンジンのファッショングッドももちろん。もちろんアンダーボディにいたる細部の作りこみもけりはない。



エンジンも搭載したハイパフォーマンスの製作が自慢。エンジンだけではなく、ボディ剛性から足回り、ブレーキのグレードアップまで、トータルパフォーマンスを高めたショップだ。全国のファンからのバックオーダーに対応しつつ、本家のプロジェクトコーナーに登場する2台も製作中。NAで史上最高を目指す!

Scene 01

ROCKY AUTO

ロッキーオート

text/K.Yamagaki 山崎和典 photo/T.Sakurai 桜井健雄

shop data

ROCKY AUTO
phone
0664-567-7000
http://www.rockyauto.co.jp
Address
〒444-0865 愛知県岡崎市
塚本町4丁目2-55-31
営業時間
9:00am~8:00pm
(隔2、4月曜日定休)



同僚インテリエンチャーからもクルマでも台というアクセスのよさを誇る東区立(左から二人前)は経験豊富な、何となく頼りになる。

エンジンスワップからフルオリジナルまでハイクオリティな仕上げが自慢のお店

ただ単純にエンジンをコンパニにするのではなく、大人の乗り物としていかに美しく仕上げられるかここは大きなテーマとなる。ロッキーオートはオーナーの意見を徹底的に聞いてからでなければプロジェクトをスタートさせないのだ。



本誌の取材でもお馴染みの老舗、ロッキーオートは今話題のエンジンコンバーションの先駆者として国内外から注目を集めている。注目を集めているショップだ。その大手前には、すでに本誌でも紹介されているが、実は最近のフルレストアもユルユルの雰囲気に合わせて行っている。つまり、旧車に関することであればなんでも相談できる心強い味方なのだ。

今ショップがお薦めのパターンのエンジンスワップを依頼する。RB25のスカ44やもちろん、それ以外の方でも、スピードだけでなく操縦性もトップレベルのクルマも珍しくない。エンジンを搭載するパターンのスカ44やもちろん、それ以外の方でも、スピードだけでなく操縦性もトップレベルのクルマも珍しくない。エンジンを搭載するパターンのスカ44やもちろん、それ以外の方でも、スピードだけでなく操縦性もトップレベルのクルマも珍しくない。



1966 Prince
Gloria Super 6

VINTAGE AUTO

Hot Impression

ヤマ編の

ホンネで語る リアルインプレ!



1947年に創業し1966年に日産自動車に合併されたプリンス自動車工業
このなんともエキゾチックでドリーミィなプリンスという称号に
何となく胸がときめく……そんな年代の方々がかつて憧れたであろう2台のクルマ
グロリアとスカイラインが今回このコーナーの主役である

text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/T.Sakurai 桜井健雄



「
2台の
プリンス
お優しい
な端正な
老いし
な」



1967 NISSAN Prince
Skyline 2000GT-A



「GT-BとGT-Cは、エンジン、ギヤボックス、サスペンション、ブレーキ、ボディを別々に用意して、顧客の要望に応じて組み立てるというシステムを採用している。これは、当時の日本では珍しかった。また、当時の日本では珍しかった。また、当時の日本では珍しかった。」

「GT-BとGT-Cは、エンジン、ギヤボックス、サスペンション、ブレーキ、ボディを別々に用意して、顧客の要望に応じて組み立てるというシステムを採用している。これは、当時の日本では珍しかった。また、当時の日本では珍しかった。」

1. プラチナ特製のメーンヘッドと高圧直に落ちる。この1000ccとしたスタアリングが後々のハコスカにも通ずる永遠の美点ともいえるのだ。2. グロリア譲りのGT型直列6気筒エンジンは本来ならばシムラキヤが搭載されたが、GT-B型直列のクワットに3速減速している。電装系はリアドライブシャフトが、補助までしっかりメンテナンスされている。3. ディアルに目立つ青い針には1000rpmから1250rpmまでを指すことができる。4. ウォーターポンプの駆動機構は、オリジナルのベアリングを装着することで駆動効力は125馬力が発生する。

VINTAGE AUTO Hot Impression

ホンネで語る
リアルインプレ!



1. プラチナのホイールはどんなクルマでも即合ふ。が、しかしこのクルマに関しては別物といえよう。2. たった1枚のステッカーが即時代を物語る。このステッカーを軸として見逃せないポイントだ。3. カルデにいらんふりがある。そしてプリンスの高級には別格の、高品質な素材を用いた内装もある。4. 後席のエンブレムや機軸部品のバックランプにも共通したシムラキヤの美しさを認めることができる。



1. 内装のコンディションも驚くほど良かった。今の感覚で見れば付いてくるクルマには見えないが、当時の高品質なステッカーも多くのファンを魅了した。3. 4. 各メカパーツの調子がシムラキヤの高級感に伝わっている。キーを挿すためにカバーをスワイプする装置は、機軸のワンシーンにでも使えそうな種のものだ。

押し進む
原点という
感じがする
一台

第一回日本グランプリ開催を機に、第二回日本グランプリ(1966年5月3日)における伝説となったエピソード、その主役であったスカイライン2000GT。そのレディは5.500ccと呼ばれる1500ccの4ドアエンジンで、GT型というOHVの直列4気筒エンジンを搭載したファミリーカーだった。

改訂の度新しいスカイラインを駆けての第一回日本グランプリで高評価を受けたプリンスは、そのファミリーセクションに前出のグロリアスーパー16に搭載したG7型エンジンをはじめと、長くて大きなエンジンを搭載するために前後からフロントノーズは20センチも延長され、エンジン自体にもウェイトアップの3速キヤブを装着、排気も1かりキヤブアップする。そしてそのポテンシャルを向上させた。その結果、グロリアスーパー16よりも100km/h以上速く走ることができ、1000rpmから1250rpmまでを指すことができる。1250rpmまでを指すことができる。1250rpmまでを指すことができる。

Hot Impression 1967 NISSAN Prince Skyline 2000GT-A

取材協力/ロケットオートプロx0604567000



プリンスという車名の響きからくる端正なイメージはファミリー層の嗜好で定着していることである。GT型モデルにはGT-Aが得意、GT-Bにはその発展系が、更に高級なGT-C、高パフォーマンスを求められることになった。



ロッカーオートからはRB20DEスワップのセミワークス仕様の箱スカを出展していた。このフォームで公道走行が可能ということもあり、出時を懐かしむ大人から小さな子供まで大人気。大いに注目を集めていた。



湾岸最高速系ショップトップシークレットは、4スロにダイレクタ高火、Vプロ制御のセリカLBを展示していた。



スターロードはアメ版湾岸ミッドナイトイメージ車両のS30Zを展示。フルレストアされた抜群のコンディションで、オリジナルエアコンも装備。

最新のカスタムカーの
中にあつても、
国産旧車の
注目度は高い！



RS1ハウスからは18インチのボルクGTF履きのGTS-Xを展示。RB25に東名カムを組みT04Eタービンを装着して320馬力。



ルマンモーターズからの展示は、S2000用のDOHCエンジンとミッションをスワップしたトレノーマルでも9000rpm回る230馬力エンジンと、軽量なハチロクとの組み合わせは強烈！



MOONEYEESブースでは、クラウンクワシックスのMS50クワウン4ドアセダンを展示していた。130馬力クワウンのレイトモーター1.1Zをスワップして、スピードマスターホイールで足を引き締める。内外装ともに素晴らしい仕上がりみせる大人のセダンに、多くの人が足を止めて見入っていた。



組 (KIZUNA) という車名でS130ジムニーとキャロルボディを合体させたカスタムカーを展示していた静岡工科大学自動車学校。ボディデザイン研究科8期生の生徒さんらの作品で、1930～1940年代のアメ車をイメージして製作されている。生徒さんが製作工程を熱心に説明していて注目度も高かった。